

## 令和7年度 第2回焼津市デジタル田園都市構想総合戦略推進会議 議事録

- 1 日 時 令和8年3月16日(月) 14時00分～15時30分
- 2 会 場 焼津市役所 会議室7A
- 3 出席委員 太田 隆之委員(静岡大学 人文社会科学部教授)  
岸 昭雄委員(静岡県立大学 経営情報学部教授)  
木戸 直美委員(静岡福祉大学 子ども学部 講師)  
村松 文次委員(焼津商工会議所 専務理事)  
大石 一宏委員(大井川商工会 事務局長)  
鈴木 正志委員(社会福祉法人焼津市社会福祉協議会 大井川支所長)  
内藤 義晴委員(株式会社静岡銀行 焼津ブロック母店長)  
小池 幸範委員(しずおか焼津信用金庫 調査役)  
川内 十郎委員(株式会社静岡新聞 論説委員兼編集委員)  
柴 睦美委員(公募)  
原田 美彩委員(公募)
- 4 欠席委員 白石 一二朗委員(焼津漁業協同組合 常任理事)  
村松 茂輝委員(大井川農業協同組合 焼津統括支店長)  
宇江喜 敦司委員(株式会社清水銀行 焼津ブロック支店長)  
村松 康義委員(島田掛川信用金庫 西焼津支店 支店長)  
大石 哲也委員(焼津公共職業安定所 所長)  
山元 聖委員(公募)  
吉良 光陽オブザーバー(静岡県中部地域局長)
- 5 事務局 角谷行政経営部長、藤野行政経営部次長、藤本政策企画課長、原田政策企画担当、大橋政策企画担当、鈴木総合計画推進担当、土肥DX推進専門鑑
- 6 開 会
  - ・角谷行政経営部長より開会あいさつを行った。
  - ・太田会長の進行により、議事に入った。

## 7 議 題

### (1) 報告1「今年度の取組について」プロジェクトS K I P

#### 【事務局説明】

資料1「令和7年度 焼津市デジタル田園都市構想総合戦略プロジェクト  
S K I P（職場環境いいねプロジェクト）について」  
について説明。

#### ※S K I P（職場環境いいねプロジェクト）概要

- ・若年層の就職による転出を抑えるとともに、都市部へ進学後もU I Jターン就職したいと思われる、若者・女性に選ばれる雇用環境づくりに向けた課題を洗い出すことを目的とした活動。

#### 【委員意見】

##### ◎3つの提案について

委員から、職場で若者・女性が活躍できる場や雰囲気醸成する3つの提案

- ①職場のコミュニケーション活性化  
(感謝や評価がある、意見や相談しやすい、笑顔や明るさ、雑談ができるなど)
- ②性別にとらわれない業務分担、業務の見直し  
(本人の希望や話を聞く、業務の削減や割り振り)
- ③柔軟な働き方の実現  
(リモートワーク、フレックス制度など)

について、これらは働きやすい企業にするのと、働きたいまちにするのと、どちらにウエイトを置いたものか、という質問があった。

事務局は、施策で働きたいまちとすることは難しいことから、市が働き手の声を聞き取り企業に届けることで、個々の企業でなく市全体で機運を高めていこうと考えている、と回答した。

##### ◎アンケート結果の分析について

委員から、若者が地元に戻らない理由は職場環境よりもまちの暮らしやすさなどのウエイトが高いと考えるため、地域とリンクしての分析が必要、との意見があった。

事務局は、S K I Pでは地域の働き方・職場改革等を進めようという国の動きに合わせて、若者や女性をめぐるアンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）や働き方の課題の洗い出しからスタートしたところ。いただいた意見も踏まえ、次年度以降の取組内容を検討していく、と回答した。

##### ◎企業の取り組み事例の発信について

委員から、健康経営等に取り組む企業の努力を市が発信していくと、それを見た他の

市内企業にも広がっていくと考える、との意見があった。

事務局は、そういった事例集は無いため、金融機関や商工会議所に協力をお願いしながら発信していきたい、と回答した。

#### ◎若者・女性への聞き取りについて

委員から、アンケートの後半に「焼津という街自体はとても魅力的で住むには良いところだが、新卒で働きたいと思える会社は少ない」という意見があるが「どういう会社であれば働きたいか」というところまで話を聞けると、企業に対しこういった企業が求められていると伝えることができるのでは、との意見があった。

事務局は、「どういう会社で働きたいか」と質問すると、職場環境というよりは業種にフォーカスされてしまうと考え、今回は職場環境という目線で回答をいただいた。ただ、本市の二十歳の集い参加者の帰省を支援する事業で、支援対象者に「就職を希望する業種」や「地元に戻って就職する気があるか」といったアンケートを実施している。会議後に委員の皆さまに共有させていただき、と回答した。

#### ◎子どもへの市内企業の周知について

委員から、中高生向けに職場体験のマッチングイベントを実施したが、アンケートの結果7割の参加者が市内企業をほとんど知らなかった。市内企業の情報を知らないまま就職してしまう若者が多く、Uターンにもつながっていないと考える。まずは市内企業のことを知ってもらうことが重要、との意見があった。

事務局は、子どもたちには地元企業の会社名だけでなく、どんな企業かまで伝わっていることが重要であると考え、今年度はそういった目的でキッズニアイベントを経済部が実施し、子どもに市内企業の職業体験をしてもらった。1回きりのイベントで終わらせず、継続していくことが大変重要であると感じている、と回答した。

#### ◎焼津商工会議所の今後の活動について

委員から、焼津商工会議所は令和8年度からの3か年計画で中学校・高校や静岡福祉大学を含む大学との連携をさらに深めようとしていることや、焼津で女性が活躍していることを広めるため女性会の活動を周知するつもりであることの報告があった。

#### ◎焼津の魅力発信について

委員から、職場環境の改善等も大切だが、魚が美味しいといった焼津の良いところを市内の子どもに浸透させ、「焼津で住み続けたい」といった意識を醸成することや、市外にPRし全国から焼津に来てもらうことが大切では、という意見があった。

事務局は、市としても情報発信の強化が求められていることを認識しており、令和8年度については情報発信を強化していく方向で考えている、と回答した。

◎市内企業のDX推進について

委員から、小学生の子どもがデジタルツールを普段から使用している。企業のDXが進まないと、就職した際に社会に失望してしまうのではないかと懸念している、との意見があった。

事務局は、市では庁内だけでなく庁外のDXの推進の枠組みを設けており、事業者向けのDXも進める予定だが、まだまだPR出来ていないのもっと発信していきたい、と回答した。

◎SKIPの今後の展望について

会長から、SKIPの今後の展望について質問があった。

事務局は、今年度はワークショップの開催とデータの読み取りを行ったが、行動を起こす前に、ワークショップの出席者以外の声を拾う必要もあると考えている。委員の皆さまから頂いた意見もかんがみ取り組みを進めていく、と回答した。

(2) 報告2「次年度の新規事業（R8～R10）について」

【事務局説明】

資料2「次年度以降に向けた取組」  
について説明。

※次年度以降の取組概要

- ・域外からの関係人口、特に地域経済の活性化に資する人材（中核的人材）を呼び込むことにより、地域産業の付加価値向上、地域課題の解決等につなげる。
- ・コミュニティ構築や負担軽減策を行うことにより、中核的人材の定着、将来的な移住定住につなげる。
- ・総務省で構築予定の「ふるさと住民登録制度」を活用し、地域経済の活性化や地域の担い手確保を目指し、二地域居住の促進を含んだ関係人口の強化を図る。

【質疑応答】

◎取組の対象について

委員から、報告1は若者女性を対象としていたが、こちらの対象はより幅広いということか、と質問があった。

事務局は、ご認識のとおりである。12月に閣議決定した「地方創生に関する総合戦略」の政策目標①は「強い経済」となっており、焼津市としても地域産業に付加価値を付ける、地域課題の解決を考える、といった地域経済の活性化に資する外の人材を呼び込みたいと考えている、と回答した。

◎ふるさと住民登録制度の登録促進について

委員から、ふるさと住民登録制度は登録者の取り合いになることが想定される。登録

を促すために押し出していく焼津の強みについて現段階で考えていることはあるか、と質問があった。

事務局は、もともと持っている強みである水産や食、温泉、富士山の見える景観等を押し出していくことに加え、今年度関係人口になり得る方々に向けた事業で、関係人口になりたいまちというのは、関わりしろがあり、チャレンジできるまちなのだと感じたことから、昨年度作成した二地域居住の計画でも、「海×チャレンジ」でチャレンジしやすいまちを作っていくことを定めたところである、と回答した。

#### ◎焼津への来訪者を増やす方法について

委員から、焼津への来訪者を増やすには、あれこれやるよりも、移住までつながる方もいる釣りなどで「海」を前面に押し出していくのが良いと考える、と意見があった。

事務局は、釣りに関しては検討したい。ただ、1度来訪しただけでは焼津を好きになり切れないと考えるため、来てもらうだけでなく、再訪してもらう仕掛けも必要と考えている。本年度から焼津ならではの体験をミッションとし、達成でもらえるポイントを景品と交換できる焼津市のファンクラブを作った。ミッション達成のため再訪してもらい、徐々に焼津市を好きになってもらうことが狙いである、と回答した。

#### ◎焼津市内の回遊策について

委員から、1年間で焼津市に来る観光客は280万人で、約半分はさかなセンターを訪れているという統計がある。呼び込む力はあるため、回遊策を考えることが必要である。焼津市にゆかりのある小泉八雲をモデルとしたNHKの朝ドラ「ばけげん」の影響で観光バスが増えている例もあり、ドラマやアニメなどを焼津市の強みである「さかな」と結びつけてPRしていくと良いのでは、という意見があった。

#### ～オブザーバーより（欠席のためコメント紹介）～

進学等で転出した若い世代が、卒業後に地元に戻らない状況は、本県人口の社会減少にとって、過去から継続している深刻な課題であり、男性と比較して女性にその傾向が高い点も含め、焼津市さんと共通しております。

また、我が国全体として人口減少が進行する中、地域づくりの担い手等として活躍いただく関係人口の強化も、県全体として取り組む必要があります。

今後とも、県内市町の皆様と緊密に連携しながら、人口減少対策を進めてまいりますので、引き続き、施策連携の強化をお願い申し上げます。

一方で、今後、中長期的には、人口減少は避けられないことは明らかであり、人口減少社会に如何に適応を図っていくかを検討していく必要があります。

このため、中部地域局では、来年度、本県中部地域の「人口減少社会への適応戦略」の検討に着手いたします。

即効性のある治療薬が存在しない、人口減少という課題に対し、中部地域局としても、焼津市さんをはじめとする管内市町の皆様と、連携しながら取り組んでまいりますの

で、引き続き、御協力賜りますようお願い申し上げます。